

日本実験動物技術者協会関西支部 平成 29 年度春季大会

大会長 駒田 孝文 (千寿製薬株式会社)

日時 平成 30 年 3 月 24 日 (土) 9 : 45 ~ 17 : 50 (9 : 15 受付開始)

会場 大阪大学吹田キャンパス 医学部講義棟 1 階 A 講堂

テーマ 実験動物技術者の役割と新たなる可能性

9 : 45 - 9 : 50 開会挨拶 大会長 : 駒田 孝文 (千寿製薬株式会社)

9 : 50 - 10 : 50 一般演題

- 1 「複数の行動実験課題を併用したマウスのうつ病的傾向の評価」 土江 伸誉
(兵庫医療大学共通教育センター)
- 2 「実験用ビーグルにおける趾間炎についての一考察」 住川 守男
(株式会社 JT クリエイティブサービス)
- 3 「ウサギにおける三種混合麻酔薬の麻酔効果について—投与経路の違いによる比較—」
桐原 由美子 (島根大学研究・学術情報機構 総合科学研究支援センター実験動物部門)
- 4 「ヒューマンサイエンス振興財団による実験動物施設の外部検証を受けて」 林 耕治
(株式会社ケー・エー・シー)
- 5 「基本テキストに見る実験動物専門家コミュニティーの執筆作法・文化について」 北 徳
(元 倉敷芸術科学大学動物生命科学科)
- 6 「我々が経験した汚染事故の考察と対応」 数田 裕樹(産業技術総合研究所)

10 : 50 - 11 : 30 協賛企業セッション

「免疫不全動物のアイソレータ生産」 日本チャールス・リバー株式会社

「ウサギの集団飼育下における影響」 北山ラベス株式会社

11 : 30 - 12 : 10 支部総会

12 : 10 - 13 : 00 昼食

13 : 00 - 14 : 00 特別講演

「ゲノム編集技術によるモデル動物の作製」

真下 知士 先生 (大阪大学)

14 : 00 - 14 : 10 休憩

14 : 10 - 15 : 40 シンポジウム 実験動物技術者から始まる動物福祉

「PAM を活かす ～ 技術者に期待する動物福祉～」

高井 了 先生 (中外製薬株式会社)

「実験動物技術者養成認定校の教員から見た技術者とは」

古本 佳代 先生 (倉敷芸術科学大学)

「研究支援スタッフ全体で取り組む PAM ～ 岡山大学での実践から」

矢田 範夫 先生 (岡山大学)

15 : 40 - 16 : 00 質疑応答

16 : 00 - 16 : 15 休憩

- 16：15－17：30 教育セミナー 動物生産業者から
「実験動物生産場における問題点」北山ラベス株式会社
「げっ歯類の繁殖・育成時に認められる外観異常 ～ 使用者の視点と生産者の視点」
日本チャールス・リバー株式会社
「処置動物の作製における問題点 ～ 偽妊娠ラットの作製から」
(日本実験動物技術者協会第 398 回本部共催企画)
外尾 亮治 先生 (一財)動物繁殖研究所
- 17：30－17：45 質疑応答
- 17：45－17：50 閉会挨拶 支部長：武智眞由美 (島根大学)
- 18：00－19：30 懇親会 (カフェテリア 匠)

※ 演題はすべて仮のものです。

参加費：当日 会員 2,000 円、非会員 3,000 円、会員学生 1,000 円、非会員学生 2,000 円
事前 会員 1,000 円、非会員 2,000 円、会員学生 0 円、非会員学生 1,000 円
懇親会：事前 3,000 円 (学生 2,000 円)、当日 4,000 円 (学生 2,500 円)